

学術集会. 福岡, 10月.

- 14) 儀武路雄, 高倉宏充, 佐々木達海, 小野口勝久, 橋本和弘. Electron beam cine CTを用いた僧帽弁疾患, MAZE術後の左心房機能の検討. 第61回日本胸部外科学会定期学術集会. 福岡, 10月.
- 15) 長沼宏邦, 川田典靖, 儀武路雄, 阿部貴行, 配島功成, 長堀隆一, 坂本吉正, 橋本和弘. 僧帽弁形成用各種リングが弁機能, 遠隔成績に及ぼす影響について. 第61回日本胸部外科学会定期学術集会. 福岡, 10月.
- 16) 橋本和弘. 良好な遠隔成績をめざして—弁尖三角形切除と弁軸ストレス軽減法—. 第20回関東心臓外科手術手技研究会. 東京, 11月.
- 17) Morita K, Shinohara G, Kinouchi K, Nagahori R. Reversal of myocardial injury after cardioplegic arrest by the post-conditioning at the early phase of reperfusion. American Heart Association Scientific Session 2008. New Orleans, Nov.
- 18) 配島功成, 川人宏次, 田口真吾, 花井 信, 松村洋高, 橋本和弘. 慢性DICによる出血傾向を呈した胸部大動脈瘤症例の検討. 第16回日本血管外科学会関東甲信越地方会. さいたま, 11月.
- 19) Yoshitake M, Takakura H, Sasaki T, Hashimoto K. Electron beam cine CT-based evaluation of left atrial function after the maze procedure for mitral valve regurgitation. The 17th Annual Meeting of Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery. Taipei, Mar.
- 20) 村松宏一, 野村耕司, 木ノ内勝士, 中村 賢, 中村讓. 先天性僧帽弁閉鎖不全及び狭窄症に対する再弁置換術2例の経験. 第149回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京, 3月.

IV. 著 書

- 1) 森田紀代造. Ross手術と体外循環法. 許俊鋭編. 心臓手術の実際: 外科医が語る術式, 臨床工学技士が語る体外循環法 (Clinical Engineering 別冊). 東京: 秀潤社, 2008. p.257-61.
- 2) 川人宏次. 第1章: 大血管疾患の病態と治療戦略 1. 大動脈外傷 1) 胸部大動脈外傷, 2) 腹部大動脈外傷. 四津良平総監修, 上田裕一監修. 心臓血管外科テクニク II: 大血管疾患編. 大阪: メディカ出版, 2009. p.2-11.
- 3) 奥山 浩, 橋本和弘. 第2章: 弁膜症の手術 2. 僧帽弁置換術. 四津良平総監修. 心臓血管外科テクニク I: 弁膜症編. 大阪: メディカ出版, 2009. p.92-6.

産婦人科学講座

- | | |
|------------|--------------------------------|
| 教授: 田中 忠夫 | 生殖免疫学・出生前診断学 |
| 教授: 落合 和徳 | 婦人科腫瘍学, 腫瘍内分泌学, 中高年女性医学・産婦人科手術 |
| 教授: 落合 和彦 | 周産期の生理と病理・婦人科細胞診・更年期医学・スポーツ医学 |
| 教授: 佐々木 寛 | 婦人科腫瘍学・細胞診断学・内視鏡手術・放射線生物学 |
| 教授: 神谷 直樹 | 生殖内分泌学 (骨代謝) |
| 教授: 恩田 威一 | 産科における栄養と代謝・出生前診断学・周産期医学 |
| 准教授: 磯西 成治 | 婦人科腫瘍学 |
| 准教授: 新美 茂樹 | 婦人科腫瘍学 |
| 准教授: 岡本 愛光 | 婦人科腫瘍学・分子産婦人科学 |
| 講師: 小林 重光 | 婦人科腫瘍学 |
| 講師: 大浦 訓章 | 周産期医学 |
| 講師: 山田 恭輔 | 婦人科腫瘍学 |
| 講師: 高野 浩邦 | 婦人科腫瘍学 |
| 講師: 高倉 聡 | 婦人科腫瘍学 |
| 講師: 篠崎 英雄 | 婦人科腫瘍学 |
| 講師: 杉浦健太郎 | 周産期医学 |

教育・研究概要

I. 婦人科腫瘍学

1. 日本人・白人卵巣漿液性腺がん臨床検体を用いた包括的アレイ CGH/GISTIC/cDNA マイクロアレイ併用解析による化学療法耐性関連遺伝子の検討

われわれは卵巣癌78例に対し包括的アレイ CGHを行い, 機能的に重要な遺伝子を選別する GISTIC (Genomic Identification of Significant Targets in Cancer) 解析を用いコピー数変化 (CNV) を検討し, *CCNE1* 遺伝子を含む6領域に絞り込んだ。さらに日本人・白人卵巣漿液性腺がん臨床検体を用いた包括的アレイ CGH/GISTIC/cDNA マイクロアレイ発現解析により化学療法耐性関連遺伝子を選別・検討した。国際的な IC を得てプラチナムをベースとした化学療法に臨床的に耐性を示した33例および感受性を示した52例の日本人・白人臨床進行期 III/IV 期漿液性腺がん計85例を用い包括的アレイ CGH 解析を行った。GISTIC 解析により CNV を検索し, さらに cDNA マイク

ロアレイも同時に行い、耐性群と感受性群で発現が異なりかつ CNV の結果と相関する遺伝子を選別した。選別された遺伝子の発現を Real time RT-PCR により検索し、無病再発期間および全生存期間との相関を統計解析した。包括的アレイ CGH 解析の結果、耐性群に *CCNE1* および *NCOA3* 遺伝子増幅が認められた。cDNA マイクロアレイ解析の結果と共通する遺伝子は *CCNE1* であり、Real time RT-PCR でも再現性が得られた。さらに *CCNE1* 発現は病再発期間および全生存期間と負の相関が認められた。日本人・白人に共通して *CCNE1* 遺伝子の増幅・発現の増強は化学療法の抵抗性の指標になり、新規分子標的治療薬のターゲットになる可能性が示唆された。

2. microRNA (miRNA) は約 22 塩基の非翻訳 RNA で、標的遺伝子の翻訳過程を調節することで、細胞の増殖、分化、アポトーシスなどの重要な生物学的役割を果たしている。現在我々は、卵巣癌におけるパクリタキセル耐性獲得機構と miRNA 発現変化を検討することで、薬剤耐性の新たな分子生物学的機構を解明し、抗癌剤耐性卵巣癌に対する臨床応用可能となりうる分子標的治療の開発を目的として研究遂行中である。

3. 卵巣癌における癌幹細胞マーカーの検索

卵巣癌における癌幹細胞マーカーの検索のために正常卵巣上皮 (OSE), 封入嚢胞 (IC), 樹立した正常卵巣上皮不死化細胞株 (IOSEC) を用いて Mesenchymal to Epithelial Transition (MET) の関与を検討した。さらに IOSEC とその primary culture (PC) 細胞間で発現が異なる遺伝子を包括的ヒトゲノム発現解析によりスクリーニングし、卵巣癌における癌幹細胞マーカーの検索を試みた。インフォームド・コンセントの下に採取した子宮体癌手術症例 9 例の OSE (n=10), 正常卵管上皮 (n=4), IC (n=92), および SV40 TAg で不死化した IOSEC (n=3) の形質を検索するために抗原マーカー (Calretinin, HBME-1, vimentin, EMA, Cytokeratin) の発現を免疫染色法で検討した。さらに SV40 TAg で不死化する前の PC と IOSEC から total RNA を抽出し、約 33,000 遺伝子の発現プロファイリングを行った。その結果、1) 種々の抗原発現より OSE は中皮細胞の性格を示し、IC は中皮細胞の性格を失いつつ、単層円柱上皮細胞の性格を獲得しつつある結果となった。2) 同様に IOSEC においても IC に類似した染色結果が得られた。3) PC と IOSEC 間で有意水準 5% で発現差が認められた遺伝子は 104 種類であった。以上より IC は

MET 過程にあることが示唆され、IOSE は IC と類似した MET 過程にあるモデルとなることが示唆された。このモデルを用いてスクリーニングされた 104 遺伝子の中に卵巣癌幹細胞マーカー候補がある可能性が示唆された。

4. プロテオミクス卵巣癌血清診断の精度評価

米国 Correlogic Systems 社 Serum Pattern Blood Test™ システムを使用したプロテオミクス卵巣癌診断を日本人血清に適用し、日本人の上皮性卵巣癌の血清診断にも有効な検査方法かどうかを確認するため精度評価を実施した。その結果、49 検体に対する精度は、米国モデルの修正を行うことで感度 89.5%, 特異性 86.7% を示した。適切な日本化プロセスを経ることで高い精度を出す潜在力があることが示された。

5. 子宮頸癌・体癌のリンパ節郭清例において、術後後腹膜閉鎖か開放かの無作為化試験で 150 例の予定症例の登録が開始され、現在 64 例に達した。

II. 周産期母子医学

1. 抗リン脂質抗体 (APA) による IUGR の病態解明

APA は習慣流産の原因となりうるものが良く知られているが、妊娠初期への影響のみならず、周産期合併症として、胎盤機能不全を本態とする妊娠性高血圧症 (PIH) や重症胎児発育遅延 (severe-IUGR) をも引き起こすことが知られている。我々は、妊娠初期に投与すると流産が誘発されることが証明されている抗マウス B2GPI 依存性カルジオリピン抗体を入手し、投与量や投与時期を検討することにより IUGR モデルマウスの作成に成功した。また、抗体投与量の増量や早期投与を行うことにより、母胎血圧の上昇や早産も誘導し得た。このマウスの病理学的検索により、APA による胎盤機能不全や腎障害は免疫複合体の沈着よりも血管内皮障害が本態であることが判明した。今後さらに、この病態の形成機序について、補体の関与を中心に研究を進めている所である。

2. 産科合併症における抗リン脂質抗体および凝固因子異常の関与

不育症例が不妊症に、あるいは不妊治療後に不育症に移行する症例を少なからず経験するが、不妊症あるいは不育症は、いずれも言わば生殖の機能不全であり、そこには共通の要因が存在している可能性も指摘されているが、今まで注目されていなかった。

そこで、それら症例に対する管理方針の資とするため、不育症単独ならびに不妊症単独症例と、それ

らの移行症例との間の病態の違いを検討したところ、不育原因では、不妊から不育への移行症例において、抗リン脂質抗体の陽性頻度が35歳以上の症例で高い傾向にあり、不育から不妊への移行症例で内分泌異常が多い傾向がみられた。そこで、特に高齢の不妊から不育への移行症例では抗リン脂質抗体の存在が生殖機能を損なっている可能性があり、現在研究費を用いて不妊患者を対象に抗リン脂質抗体の測定を行っている。

また、不妊から不育への移行症例では、35歳以上の割合が高く、ARTによって妊娠成立する症例が多く、妊娠までの期間も短かった。移行症例では、単独症例と比べて妊娠率は変わらないが、不妊から不育あるいは不育から不妊を問わず、またARTあるいは抗凝固療法を施行しているにもかかわらず、流産率は高く、また生児獲得率が有意に低かった。不妊・不育の移行症例では、不育あるいは不妊の単独症例より生殖機能が損なわれており、今後原因究明にあたりたい。

3. 分娩ストレスマーカーとしての尿中バイオピリン値の検討

尿中ビリルビンの酸化代謝生成物質バイオピリン(BPn)値の分娩に伴うストレスマーカーとしての有用性を検討した。自然分娩例、誘発、帝王切開例の陣痛前尿中BPn値には有意差を認めなかった。しかし、産後尿中BPn値は 4.01 ± 1.11 , 8.01 ± 1.38 , 3.00 ± 0.96 (U/gCre)と誘発症例に有意高値を認め、誘発処置は強い精神的ストレスが加わることが示唆された。

4. E6/E7/hTERT 導入ヒト絨毛上皮不死化細胞株の樹立

栄養膜細胞(Tr)の機能の解析には不死化細胞株を用いた*in vitro*の実験系が有用であるが、絨毛外Trあるいは絨毛性Trの細胞での報告はあるものの、合胞体Trを用いた報告はない。そこで、インフォームドコンセントを得た人工妊娠中絶症例(妊娠7週)の絨毛組織を培養液内でリンスし、遠心、洗浄を行った後、コラーゲンコートディッシュで培養、クローニングし、E6/E7/hTERT遺伝子を導入して、不死化細胞株を樹立した。樹立した細胞株は、hCG β 陽性、サイトケラチン8、18陽性、インヒピン α 陽性の合胞体Tr細胞の特徴を有し、現在90継代以上安定して増殖を続けている。また正常核型を示し、ヌードマウス皮下接種後3ヶ月以上腫瘍形成は認められていない。またこの細胞株を用いて低酸素状態(1%)1時間培養し、その後正常酸素状態(20%)に戻し、可逆的に発現変化する遺伝

子を4,7000トランスクリプトからスクリーニングした。低酸素状態で可逆的に発現変化する遺伝子はprostaglandin I2 (prostacyclin) synthaseを含む32遺伝子が抽出された。Trの最終的な分化形態である合胞体Trのヒト不死化細胞株をはじめ樹立した。本細胞株はTrの生理機能および病理変化の解析に有用であり、特に母児間の物質代謝と輸送の異常が原因となるIUGRなどの病態解明、薬剤の標的分子の探索・毒性評価などへの応用が可能である。

III. 生殖内分泌学

1. 着床期子宮内膜におけるCD147の発現の検討

生殖補助医療の発展した現在では妊娠成立に関して多くのことが明らかになってきているが、着床現象だけはいまだ不明な点が多い。

CD147は、MMPの発現を誘導し、癌の浸潤や転移、妊娠成立時の着床現象などに関与しているが、ヒトの着床現象に対する関与とその機序については明らかでない部分も多い。我々は排卵誘発時の着床期子宮内膜における子宮内膜局所因子の量的関係を検討した。排卵誘発をすることによって着床期子宮内膜のCD147、MMP2の発現が減少することが示唆された。

「点検・評価」

産婦人科学の3本柱である1) 婦人科腫瘍学、2) 周産期母子医学、そして3) 生殖内分泌学の分野を主な研究対象としている。研究概要にあるように、教室の研究メインテーマである腫瘍学に関するものが幅広いが、周産期医学、生殖医学に関する分野での研究も順調に進展してきている。

個々の内容をみると、婦人科腫瘍学の分野では、包括的アレイCGH/GIST/cDNA併用解析あるいはmicroRNA発現解析による化学療法耐性遺伝子の検討、癌幹細胞マーカーの探索、プロテオミクス卵巣癌診断など、新しい領域に積極的に取り組んでいる。生殖医学では、CD147をキーワードに着床期内膜での発現解析などの基礎的研究に取り組み始めた。周産期医学では、抗リン脂質抗体が関わる病態を幅広く解析しており、この分野では本邦のトップレベルにある。

第60回日本産科婦人科学会(2008年)においては、グッドプレゼンテーション賞を2演題が受賞した:「産科合併症における抗リン脂質抗体および凝固因子異常の関与」(周産期医学部門),「Discovery

of new biomarkers for screening of endometrial cancer of the uterus」(婦人科腫瘍学部門)である。このように、教室の研究はここ数年毎年学会表彰を受けており、高く評価されている。

多忙な臨床の中、国内外で評価される研究を遂行している教室員の努力には敬意を表すが、さらに積極的な論文執筆への姿勢を求めたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Schetter AJ, Leung SY, Sohn JJ, Zanetti KA, Bowman ED, Yanaihara N, Yuen ST, Chan TL, Kwong DL, Au GK, Liu CG, Calin GA, Croce CM, Harris CC. MicroRNA expression profiles associated with prognosis and therapeutic outcome in colon adenocarcinoma. *JAMA* 2008; 299(4): 425-36.
- 2) Okamoto S, Okamoto A, Nikaido T, Saito M, Takao M, Yanaihara N, Takakura S, Ochiai K, Tanaka T. Mesenchymal to epithelial transition in the human ovarian surface epithelium focusing on inclusion cysts. *Oncol Rep* 2009; 21(5): 1209-14.
- 3) Etemadmoghadam D, deFazio A, Beroukhi R, Mermel C, George J, Getz G, Tothill R, Okamoto A, Raeder MB, Harnett P, Lade S, Akslen LA, Tinker AV, Locandro B, Alsop K, Chiew YE, Traficante N, Fereday S, Johnson D, Fox S, Sellers W, Urashima M, Salvesen HB, Meyerson M, Bowtell D; AOCs Study Group. Integrated genome-wide DNA copy number and expression analysis identifies distinct mechanisms of primary chemoresistance in ovarian carcinomas. *Clin Cancer Res* 2009; 15(4): 1417-27.
- 4) Isonoshi S, Ogura A, Kiyokawa T, Suzuki M, Kunito S, Hirama M, Tachibana T, Ochiai K, Tanaka T. Alpha-fetoprotein (AFP)-producing ovarian tumor in an elderly woman. *Int J Clin Oncol* 2009; 14(1): 70-3.
- 5) Tada H, Teramukai S, Fukushima M, Sasaki H. Risk factors lower limb lymphedema after lymph node dissection in patients with ovarian and uterine carcinoma. *BMC Cancer* 2009; 9: 47.
- 6) Katsumata N, Fujiwara Y, Kamura T, Nakanishi T, Hatae M, Aoki D, Tanaka K, Tsuda H, Kamiura S, Takehara K, Sugiyama T, Kigawa J, Fujiwara K, Ochiai K, Ishida R, Inagaki M, Noda K. Phase II clinical trial of pegylated liposomal doxorubicin (JNS002) in Japanese patients with mullerian carcinoma (epithelial ovarian carcinoma, primary carcinoma of fallopian tube, peritoneal carcinoma) having a therapeutic history of platinum-based chemotherapy: a Phase II Study of the Japanese Gynecologic Oncology Group. *Jpn J Clin Oncol* 2008; 38(11): 777-85.
- 7) Omi H, Okamoto A, Nikaido T, Urashima M, Kawaguchi R, Umehara N, Sugiyama Y, Saito M, Kiyono T, Tanaka T. Establishment of an immortalized human extravillous trophoblast cell line by retroviral infection of E6/E7/hTERT and its transcriptional profile during hypoxia and reoxygenation. *Int J Mol Med* 2009; 23(2): 229-36.
- 8) Kawaguchi R, Tanaka T, et al. Priming of peripheral monocytes with prolactin (PRL) sensitizes IFN-gamma-mediated indoleamine 2,3-dioxygenase (IDO) expression without affecting IFN-gamma signaling. *J Reprod Immunol* 2008; 77(2): 117-25.
- 9) Itoh H, Iwasaki M, Nakajima Y, Endo Y, Hanaoka T, Sasaki H, Tanaka T, Yang B, Tsugane S. A case-control study of the association between urinary cadmium concentration and endometriosis in infertile Japanese women. *Sci Total Environ* 2008; 402(2-3): 171-5.
- 10) Saeki T, Sano M, Komoike Y, Sonoo H, Honjyo H, Ochiai K, Kobayashi T, Aogi K, Sato N, Sawai S, Miyoshi Y, Takeuchi M, Takashima S. No increase of breast cancer incidence in Japanese women who received hormone replacement therapy: overview of a case-control study of breast cancer risk in Japan. *Int J Clin Oncol* 2008; 13(1): 8-11.
- 11) 沢 昭彦, 林 博, 加藤淳子, 齋藤幸代, 高橋絵理, 杉山信依, 矢内原臨, 新美茂樹, 田中忠夫. 当院における子宮鏡下粘膜炎下筋腫核出術後の不妊治療成績および妊娠・分娩予後. *産婦の実際* 2009; 58(2): 257-61.
- 12) 林 博, 齋藤隆和, 楠原淳子, 高橋絵里, 野澤幸代, 高田 全, 杉本公平, 田中忠夫. 当院におけるART治療後の妊娠予後. *日生殖医学会誌* 2007; 52(4): 334.
- 13) 比留間理枝子, 上出泰山, 安西範晃, 松本隆万, 小竹 讓, 和知敏樹, 篠 英雄, 多田聖明, 神谷直樹, 佐々木寛. 子宮頸癌におけるIrinotecan HydrochlorideとNedaplatin併用化学療法. *癌と化療* 2008; 35(4): 607-10.
- 14) 林 博, 杉本公平, 添田明美, 加藤淳子, 齋藤幸代, 高橋絵理, 川口里恵, 和田誠司, 大浦邦章, 田中忠夫. 当院におけるART治療後の周産期予後. *日受精着床会誌* 2009; 26(1): 273-6.

- 15) 三沢昭彦, 林 博, 加藤淳子, 齋藤幸代, 高橋絵理, 杉山信依, 矢内原臨, 新美茂樹, 田中忠夫. 当院における子宮鏡下粘膜下筋腫核出術後の不妊治療成績および妊娠・分娩予後. 産婦の実際 2009; 58(2): 257-61.
- 16) 田中忠夫, 杉浦健太郎, 和田誠司, 梅原永能, 川口里恵, 高橋絵里, 齋藤幸代, 林 博, 杉本公平, 大浦訓章, 恩田威一. 【発達期における骨格系と脳脊髄液循環動態の発生学的特性に基づく高次脳脊髄機能障害の治療および総合医療に関する研究】妊娠早期での診断を目指した二分脊椎症胎児のスクリーニング 1. 生殖補助医療による妊娠が母体血清マーカー値に及ぼす影響の検討 2. 妊娠早期における二分脊椎症胎児検出のアルゴリズムの検討 母体血清マーカーテストと超音波検査の組み合わせ 妊娠早期での診断を目指した二分脊椎症胎児のスクリーニング. 小児の脳神 2009; 34(1): 3-4.
- 17) 高橋絵理, 杉本公平, 林 博, 渡辺裕子, 長谷川美奈子, 村尾明美, 加藤淳子, 野澤幸代, 黒田 浩, 拝野貴之, 川口里恵, 矢内原臨, 和田誠司, 大浦訓章, 田中忠夫. 分割期胚2個移植にて三絨毛膜性品胎が成立した1例. 日産婦東京会誌 2008; 57(3): 366-71.

II. 総 説

- 1) 小林重光. 【子宮がんの治療指針】子宮がんの手術療法 適応と方法. 臨腫瘍プラクティス 2008; 4(4): 332-5.
- 2) 福田貴則, 佐々木寛. 【婦人科がん診療のリスクマネージメント】手術療法の問題点 卵巣癌の腹腔鏡下手術. 産婦の実際 2008; 57(11): 1768-71.
- 3) 落合和彦, 磯西成治, 鈴木美智子. 【周産期診療プラクティス】妊娠 合併症妊婦 婦人科腫瘍合併妊娠. 産婦治療 2008; 96(増刊): 611-6.
- 4) 佐々木寛. 産婦人科診療 私のコツ 婦人科がん手術後の下肢リンパ浮腫の予防. 産と婦 2009; 76(1): 94-6.
- 5) 落合和徳. 卵巣(悪性卵巣腫瘍)悪性卵巣腫瘍の診断と治療は? 日本更年期医学会編. 更年期医療ガイドブック. 東京: 金原出版, 2008. p.153-6.
- 6) 田中忠夫, 柳田 聡, 矢内原臨. 【妊孕能温存の婦人科がん治療】絨毛性疾患の妊孕能温存治療. 産婦の実際 2009; 58(3): 409-17.
- 7) 柳田 聡, 田中忠夫. 【妊婦と胎児の画像診断 Up-to-date】妊娠初期の異常と画像診断 胞状奇胎. 産婦の実際 2008; 57(3): 399-406.
- 8) 落合和徳. 実践手術学 病変部位別手術対応方法 ダグラス窩の病変(子宮内膜症を含む)の取り扱い. 産婦手術 2008; 19: 81-6.
- 9) 岡本三四郎, 中野 真, 坂本 優, 甲斐田信嗣, 田中忠夫. シリーズで学ぶ最新知識 HPV と子宮頸癌

子宮頸がん検診における HPV-DNA 検査とその意義. 産婦の実際 2008; 57(12): 1999-2006.

III. 学会発表

- 1) 上田 和, 山田恭輔, 青木勝彦, 矢内原臨, 高倉 聡, 鷹橋浩幸, 岡本愛光, 落合和徳, 安田 允, 大川 清, 田中忠夫. 子宮頸部扁平上皮病変における CD147 発現解析(Study of CD 147 expression in cervical squamous cell carcinoma and cervical intraepithelial neoplasia). 第 67 回日本癌学会総会. 名古屋, 10 月.
- 2) 矢内原臨, 岡本愛光, 齋藤美里, 高倉 聡, 山田恭輔, 落合和徳, 田中忠夫. 子宮癌肉腫 16 例の臨床病理学的検討. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4 月.
- 3) 岡本愛光, 矢内原臨, 高倉 聡, 高尾美徳, 尾見裕子, 柳田 聡, 田部宏, 山田恭輔, 新美茂樹, 佐々木寛, 安田 允, 落合和徳, 田中忠夫. Mapping 25K Array-GISTIC 解析法を用いた卵巣癌におけるコピー数異常領域の検討. 第 7 回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会. 名古屋, 7 月.
- 4) 岡本愛光, 浦島充佳, 二階堂孝, 高尾美徳, 齋藤美里, 高倉 聡, 矢内原臨, 山田恭輔, 磯西成治, 安田 允, 落合和徳, 田中忠夫. アレイ解析 臨床応用を目指して 漿液性卵巣癌における包括的ヒトゲノム発現解析による Paclitaxel (PTX) 耐性関連遺伝子のスクリーニングとその臨床応用. 第 18 回日本サイトメトリー学会学術集会. 東京, 6 月.
- 5) 上田 和, 山田恭輔, 岡本愛光, 齋藤美里, 落合和徳, 安田 允, 田中忠夫. 子宮頸部扁平上皮癌および高度扁平上皮内病変における CD147 発現解析. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4 月.
- 6) Suzuki M, Isonishi S, Ogura A, Takao M, Hirama M, Matsumoto R, Ochiai K, Tanaka T. Use of taxotere without desensitization after paclitaxel hypersensitivity reaction in epithelial ovarian and endometrial cancer. 12th International Gynecologic Cancer Society. Bangkok, Oct.
- 7) 鈴木美智子, 楠原淳子, 磯西成治, 小倉麻子, 松本隆万, 国東志郎, 平間正規, 落合和彦, 田中忠夫. 分娩ストレスマーカーとしての尿中バイオピリン値の検討. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4 月.
- 8) 川口里恵, 梅原永能, 二階堂孝, 上出泰山, 和田誠司, 杉浦健太郎, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. 抗リン脂質抗体による FGR (IUGR) の病態解明〜モデルマウスからの解析〜. 第 27 回日本周産期・新生児医学会周産期学シンポジウム. 郡山, 1 月.
- 9) 川口里恵, 梅原永能, 竹中将貴, 上出泰山, 内野麻

- 美子, 和田誠司, 杉浦健太郎, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. Prolactin(PRL)はブライミング作用により IFN- γ による単球IDO(indoleamine-2,3-dioxygenase)の発現を増強し妊娠維持に関与する. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4月.
- 10) 三沢昭彦, 林 博, 楠原淳子, 野沢幸代, 高橋絵理, 大黒信依, 矢内原臨, 杉本公平, 新美茂樹, 田中忠夫. 当院における子宮鏡下粘膜下筋腫核出術後の不妊治療成績および周産期予後. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4月.
- 11) 林 博, 矢内原臨, 渡辺裕子, 添田明美, 加藤淳子, 高橋絵理, 齊藤幸代, 黒田浩, 拝野貴之, 川口里恵, 杉本公平, 窪田尚弘, 田中忠夫. 着床期子宮内膜におけるCD147発現の検討. 第53回日本生殖医学会総会・学術講演会. 神戸, 10月.
- 12) 川口里恵. (シンポジウム2: 粘膜免疫と生殖)着床から妊娠維持におけるプロラクチンの役割- IDOの発現増強を介して-. 第53回日本生殖医学会総会・学術講演会. 神戸, 10月.
- 13) 佐々木寛. (シンポジウム)リンパ浮腫の予防と治療. 第35回日本マイクロサージャリー学会学術集会. 新潟, 11月. [第35回日本マイクロサージャリー学会学術集会プログラム・抄録集 2008; 71]
- 14) 岡本愛光, 矢内原臨, 高倉 聡, 高尾美穂, 尾見裕子, 柳田 聡, 田部 宏, 山田恭輔, 新美茂樹, 佐々木寛, 安田 允, 落合和徳, 田中忠夫. Mapping 250K Array-GIST 解析法を用いた卵巣癌におけるコピー数異常領域の検討. 第44回日本婦人科腫瘍学会学術集会・第7回日本婦人科がん分子標的研究会. 名古屋, 7月.
- 15) 上田 和, 山田恭輔, 岡本愛光, 齊藤美里, 落合和徳, 安田 允, 田中忠夫. 子宮頸部扁平上皮癌および高度扁平上皮内病変におけるCD147発現解析. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4月.
- 16) 高尾美穂, 岡本愛光, 二階堂孝, 浦島充佳, 齊藤美里, 矢内原臨, 高倉 聡, 落合和徳, 滝川 修, 田中忠夫. ELISA法による血清IDO値測定法の確立と卵巣癌症例における癌組織IDO発現量と血清IDO値の検討. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会. 横浜, 4月.
- 17) Kamiura S, Katumata N, Hirai Y, Sugiyama T, Kokawa K, Hatae M, Nishimura R, Ochiai K. Phase II study of S-1, an oral fluoropyrimidine, in patients with advanced or recurrent cervical cancer. ESMO (European Society for Medical Oncology) 2008. Stockholm, Sept.
- 18) Hirai Y, Katsumata N, Kamiura S, Sugiyama T, Kokawa K, Hatae M, Nishimura R, Ochiai K. Phase II study of S-1 patients with advanced or recurrent cervical cancer. ASCO (American Society of Clinical Oncology) 44th Annual Meeting. Chicago, May.
- 19) Ochiai K. (General Comments) Strategie future della federazione internazionale di ginecologia e osterica (FIGO). SIGO 2008: 84th Italian Congress of Obstetrics & Gynaecology, Torino, Oct.
- 20) Ochiai K. HRT and breast cancer in Japan. Japanese-German Obstetrics and Gynecology Symposium. Bayreuth, Aug.